

2025年度 第24回英語スピーチコンテスト

英語スピーチコンテスト実行委員会

開催 日…2025年11月22日(土)
開催方法…対面で実施
エントリー方法…10月13日～10月17日に原稿を提出し、複数の担当教員の匿名原稿審査によって、出場者を決定する。
本選出場…個人の部 12名
SEA発表 6名
(SEA1、SEA2のグループメンバーはどちらも3名ずつ)
計 18名
運営と主催…外国学部英語英文学科
共催…人文学会

概要
2025年11月22日(土)に英語英文学科主催第24回 English Speech Contest がみなどみらいキャンパス(米田吉盛記念ホール)で開催されました。学生、教員等合わせて約250名が参加しました。個人の部の発表では12名の参加者が、自分の感じたこと、経験、メッセージなどを熱く、一生懸命に発表していただきました。また、その後のSEA1・2 (Study English Abroad) プロ

ジェクトのグループ発表では、ハワイ(SEA1)やイギリス(SEA2)でそれぞれ学んだことや楽しかったこと、大変だったことなど、非常に興味深い内容をたくさん語っていただきました。練習ではそれぞれ課題点で壁にぶつかることがありましたが、当日では最高の形で終えることができました。

コンテストの出場者

〈個人の部〉

1. 笠谷匠
“True Power is learning who you are.”
(Honorable Mention)
2. 武藤麗
“Not where you are, but what you do.”
(一位) Most Inspirational Speech賞
3. 柳内裕羽
“The Last Sushi: why rising temperature threatens our lives”
(Most Academic Speech賞)
4. 鄭奕哲
“Deadline - my greatest motivation” (3位)
5. 佐久川海心
“Who is ‘normal’?” (Honorable Mention)
6. 渡邊花音
“Achieve small goals step by step”
(Merit賞)
7. 武江祐輝
“The Simple Things in Life”
(Most Charismatic Speech賞 Merit賞)
8. 杉田佳南実
“Honne and Tatemae: Honest Feeling and Public Stance” (Honorable Mention)
9. 安達友樹
“The Power of Nonverbal Communication”
(Merit賞)
10. 高田俊太郎
“The Power of Political Correctness in Movies” (Honorable Mention)
11. 神戸妃春
“More than Self-Satisfaction”
(Honorable Mention)

12. 稲見 怜花

“Don't judge a book by its cover” (2位)

〈SEA発表〉

SEA1

碧海 七音・西岡 邦浩・齊藤 麻衣

SEA2

高橋 ひかり・水野 なつみ・佐藤 祐菜

〈学生スタッフ〉

○総監督

遠藤 亜優美

○副総監督

中野 旬華

○総合司会MC

中家 光月・伊藤 鈴菜・大沼 蓮太郎

○動画・写真撮影係

櫻井 亜沙美、奥津 実佑、矢野 莉央奈

○パワーポイント係

齊藤 麻衣、翁川 しずく、須田 虎汰

○受付・誘導係

小嶋 真桜、エヴァンス・プレストン・町野、

牧野 讃良、山口 成、矢野 莉央奈

○プログラム・投票・計時係

川本 琶月、松本 優凜、小野 沢 はるか

○音響・照明係

櫻井 滉人、萩原 美樹、松原 めい

2025年度スピーチコンテストの学生スタッフ
各リーダー、入賞者の計12名の率直な感想

1. 総監督

外国語学部 英語英文学科3年 遠藤 亜優美

昨年度のスピーチコンテストでは、司会を担当させていただきました。しかし今年度では、信頼してくれる友人や先生方の推薦により、総監督という極めて重要な役を務めさせていただきました。昨年、一緒に司会を担当した後輩の子が、率先して副監督を担当してくれて、非常に心強く感じました。私たち監督組として、コンテストの準備はもちろん、その中で他のスタッフや参加者へのサポートを常に心掛けていました。今回、総監督としての責任の重さと、就活や日々の授業との両立の難しさを感じ、何度も壁にぶつかることがありました。しかしそんな中でも、副監督の子を始め、先生方や友人など、周りの人達に支えてもらったことで、また頑張れる気持ちになりました。そして当日、昨年度と比べてプログラムがスムーズに行われ、ホールにいる皆さんの歓声や拍手がとても大きく響き、望んでいた結果以上に終えることができました。もちろん、まだまだ課題点はいくつかありましたが、この経験は私にとって最大の挑戦であり、最高の思い出です！

2. 総合司会MC代表

外国語学部 英語英文学科2年 中家 光月

私は昨年と今年の2度、スタッフとしてスピー

チコンテストに関わらせていただきました。今年はMCとして3名で役割を分担しながら活動を行いました。最初は司会の原稿とパワーポイントがずれていたり不明瞭な点が多かったりと不安な点もありましたが、本番が近づくとつれ役割を超えて協力したことで本番では臨機応変に行うことができました。特にMCはスタッフ全員と先生方、スピーカーのおかげで役割を全うすることができたと思います。このような経験ができたことをとても嬉しく思います。

3. 動画・写真撮影係代表

外国語学部 英語英文学科1年 櫻井 亜沙美

今回初めてスタッフとしてスピーチコンテストに参加しました。リハーサルやチームメンバーとの打ち合わせを重ねたおかげでなんとか終えることが出来ました。私は動画・写真撮影係として、スピーカーやスタッフの活動を記録し残しました。最後に流すために頑張って作ったスライドショーを先生方やスタッフに褒めてもらえて嬉しかったです。あそこに収めきれないほどの思い出を残すことが出来て良かったです。また、この経験のおかげで新たな交流を作ったり、今まであった関係をより深めたりすることが出来たので参加して良かったです。

4. パワーポイント係代表

外国語学部 英語英文学科2年 齊藤 麻衣

今回、初めてスタッフとしてスピーチコンテス

トに参加し、パワーポイント担当のリーダーを務めました。沢山のスタッフと連絡を取り合い、学年関係なく案を出し合っており、見やすさや見栄えを考えて制作しました。本番ギリギリまで複雑なプロジェクターの操作練習とスタッフ同士での調整を繰り返して、無事にスピーチコンテストを成功させることができたことは、私にとって大きな経験となりました。多くの方のおかげで、本番の臨機応変な対応と、周りとの繋がりを大切にして助け合うことの大切さを学ぶことができました。

5. 受付・誘導係代表

外国語学部 英語英文学科1年 小嶋 真桜

今回は初めて受付・誘導係を担当するスタッフとしてスピーチコンテストに参加しました。スピーチコンテストでどのような仕事をすべきか不安になってしまいうこともありました。責任をもってスタッフの皆さんと協力して役割分担を決めて仕事をしたことで、目立つ仕事ではないですが裏方として支える大切さや協力する重要性を学びました。また、普段の授業で関わりがなかった人とも活動でき達成感を共有したことで交流を楽しむこともできました。スタッフとして参加できたことで貴重な経験ができました。

6. プログラム・投票・計時係代表

外国語学部 英語英文学科1年 川本 慧月

今回はスタッフとして、プログラム作成、タイムキーパー、投票フォームの作成を担当させてい

いただきました。今年は紙でのプログラム作成ということもあり、セオリーに沿って見やすく作ることを重視し、各ページの情報量のバランスや色合いに配慮しました。タイムキーパーとしては、発表者の方が見やすい位置にタイマーを設置し、正確に時間を計測することに努めました。自分たちがタイマーを操作するタイミングが発表者の方のスコアに影響を与えうることを認識し、責任を持って当日の業務に臨みました。今回の活動を通して、チーム一丸となつて一つのことに取り組むことのやりがいや面白さを学ぶことができました。

7. 音響・照明係代表

外国語学部 英語英文学科1年 櫻井 混人

今回、1年生として初めてスピーチコンテストにサポートスタッフとして参加させて頂きました。音響照明スタッフとしてステージの横から発表者達の大きな背中を見守っていました。1ヶ月の準備期間を経て、同じチームのメンバーはもちろんスタッフや先生達ともコミュニケーションを取りながら、基礎的なノウハウから観客への効果的な音響効果等の伝え方も教えて頂きました。無事に今年のスピーチコンテストを終えられたことで嬉しく思います。

8. 1位入賞、Most Inspirational Speech賞

外国語学部 英語英文学科3年 武藤 麗

昨年は3位という結果に終わり、その悔しさを

糧に、今回は準備と練習をさらに重ねてコンテストに臨みました。コーチの全面的な協力に加え、先生方や友人の支えによって、自分のスピーチを磨き上げることができたと感じています。また、ライバルでもあるスピーカーたちがお互いを認め合い、称え合う温かな姿勢にも支えられました。オーディエンスから「大学生活を見直すきっかけになった」「目標となる先輩を知ることができた」といった声をいただき、この環境で過去の結果にリベンジできたことを誇りに思うと同時に、関



1位受賞の武藤 麗さん

わってください。すべての方々に感謝しています。

9. 2位入賞

外国語学部 英語英文学科2年 稲見 怜花

今年初めてスピーチコンテストに参加しました。大きな舞台は初めてで、人生最大のチャレンジだったので不安でしたが、多くの学びがありました。教授やスタッフ、参加者の皆さんが支えてくれ、とても優しい環境でした。終了後には心に



2位受賞の稲見 怜花さん

響いたと言ってもらえて、とても嬉しく温かい気持ちになりました。今まで自分の英語力や表現力に自信のない私でしたが、この経験は確実に大きな自信になりました。そして、関わってくださった全ての方に感謝しています。本当に素敵で忘れられない時間でした。

10. 3位入賞

外国語学部 英語英文学科1年 鄭 奕哲

今回、初めてスピーチコンテストに参加し、3位入賞という結果をいただきました。今まで人前で話す経験がほとんどなく、特に今回は大勢の観客の前で話すということで、正直とても不安で、「本当にできるだろうか」と何度も自分に問いかけました。準備の途中で何度も心が折れそうになりましたが、友人や先生方の支えのおかげで最後までやりきることができました。練習を重ねていく中で、単に英語で話すだけでなく、「自分の言葉で伝える」ということの大切さを強く感じました。本番当日は緊張で手が震えましたが、ステージに立ち、最後までスピーチを終えられたとき、挑戦して本当に良かったと思いました。審査員の方々からいただいた温かいフィードバックは、私にとって大きな励みになりました。今回の結果はとても嬉しいですが、同時にもっと成長したいという気持ちも強くなりました。今回のコンテストは、私にとって大きな一歩であり、非常に意味のある経験でした。支えてくださった皆さま、本当にありがとうございます。これからも努力を



3位受賞の鄭奕哲さん

続け、さらに挑戦していければと思います。

11. Most Academic Speech 賞

外国語学部 英語英文学科1年 柳内 裕羽

今回初めて人の前でスピーチをするということもあり、最初はどのようなことか心配でした。そんな中でも最後までやり切れたのはコーチの存在が大きかったと思います。スクリプトの修正や、実際に喋る時のポイントなどスピーチにおいて大切なことをたくさん学ぶことができました。最終的

に本番では賞を取ることができました。今回コーチをしてくださった先生、練習を見てくださった先生方、運営スタッフ、そして当日に来てくれた観客の皆様にはとても感謝しています。

12. Most Charismatic Speech賞

外国語学部 英語英文学科1年 武江祐輝

スピーチコンテストの前、私はどのトピックを選ぶべきか迷っていました。幸いにも教授から「聴衆に聞いてほしいメッセージを届けなさい」という助言をいただき、そのおかげで原作を完成させることができました。こうして私は「Simple Things in Life」というスピーチを作れました。本番では緊張しましたが、シヨ一の主役を演じることがで継続の支えとなり、皆を楽しませることができました。優勝は逃しましたが、舞台上に立てたこと、そして最もカリスマ性のあるスピーカー賞を受賞できたことを誇りに思います。緊張した人物を演じること、スピーチの練習時間を確保することの重要性を学びました。



コンテスト参加者・審査員・教員・学生スタッフ